

## 核兵器禁止条約第1回締約国会議の意義と成果

### 1) 歴史的な成果をあげた

「ウィーン宣言—核兵器のない世界へのわれわれの決意」

「ウィーン行動計画」

### 2) 核戦争阻止と核兵器廃絶で、強固な国際的結束を作った

グテーレス国連事務総長のあいさつ

ロシアのウクライナ侵略への批判—国連憲章違反

「核兵器のいかなる威嚇も、それが明示的であれ暗示的であれ、いかなる

状況の下でも、明確に非難する」(ウィーン宣言)

### 3) 核兵器禁止条約の存在感示す

署名国86, 批准国66か国

NATO 加盟国・米同盟国がオブザーバー参加

ノルウェーの発言

核抑止力論への批判が相次ぐ—NATO 加盟国も議論に参加

### 4) 日本政府へきびしい批判

締約国会議を欠席、厳しい批判

岸田首相—マドリッドの NATO 首脳会議に参加

「一部の非核国が核抑止力を擁護し、核保有の継続を奨励している」

(ウィーン宣言)

5) 原水協の声明—ウィーン宣言と同じライン

6) 禁止条約履行促進のための具体的決定

7) 広島・長崎は禁止条約の原点

被爆証言の重要性強調される

被害者支援 (第6条と7条)

8) NPT 再検討会議に向けて

禁止条約は、NPT、特に6条に義務を補完する

9) カギをにぎる市民社会

われわれは、自国における義務を完全に果たす

→禁止条約に参加する日本政府をつくる

当面、広島・長崎から「核兵器なくそう！」の声を！